

もりのかぜ Vol.7



森を感じる情報誌——Green Page Akita

緑の募金で
ふせごう地球温暖化



公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

いおろす (Aeolus) はギリシア神話に登場する「風の神」であり、豊かな森と妖精を合わせたイメージとして生まれたこの冊子のキャラクターです。

〈CONTENTS〉特集●男鹿三山「お山かけ」 森の名手・名人を訪ねる／2 緑育REPORT／4 市町村の緑化推進委員会を訪ねて／6 GREEN PAGE AKITA／8 Photographこの一枚／10 あきた・緑化の足跡／11 インフォメーション／12

特集 男鹿三山「お山かけ」

男鹿半島・西海岸寄りには真山、本山、毛無山の三峰が連なり、男鹿三山として親しまれています。真山神社と門前の間は縦走登山「お山かけ」コースになっています。五月二十四日、「お山開き」の行事として市内外の参加者が新緑の「お山かけ」登山を楽しみました。



杉の古道、ブナの囁き、十二キロのトレッキングコース

古道を辿る「お山かけ」

「お山開き」は江戸時代に修験者たちが毎春、真山・本山に登ったのが起源とされています。真山神社は平成十九年に本殿を改築。それに合わせて翌年から「お山開き本殿登拝行事」が復活され、今年で八回目を迎えました。昔の面影を残す古道は、風雪に耐えてきた杉やブナなどの木々が背を曲げて語りかけてくるような威容が広がります。どこまでも続く緑のトンネル、美しい花々、あちらこちらにみられる信仰の足跡、眼下に広がる日本海。深山でありながら気軽に登れる「お山かけ」コースは、心身共清々しくなれるひとときへ導いてくれることでしょう。



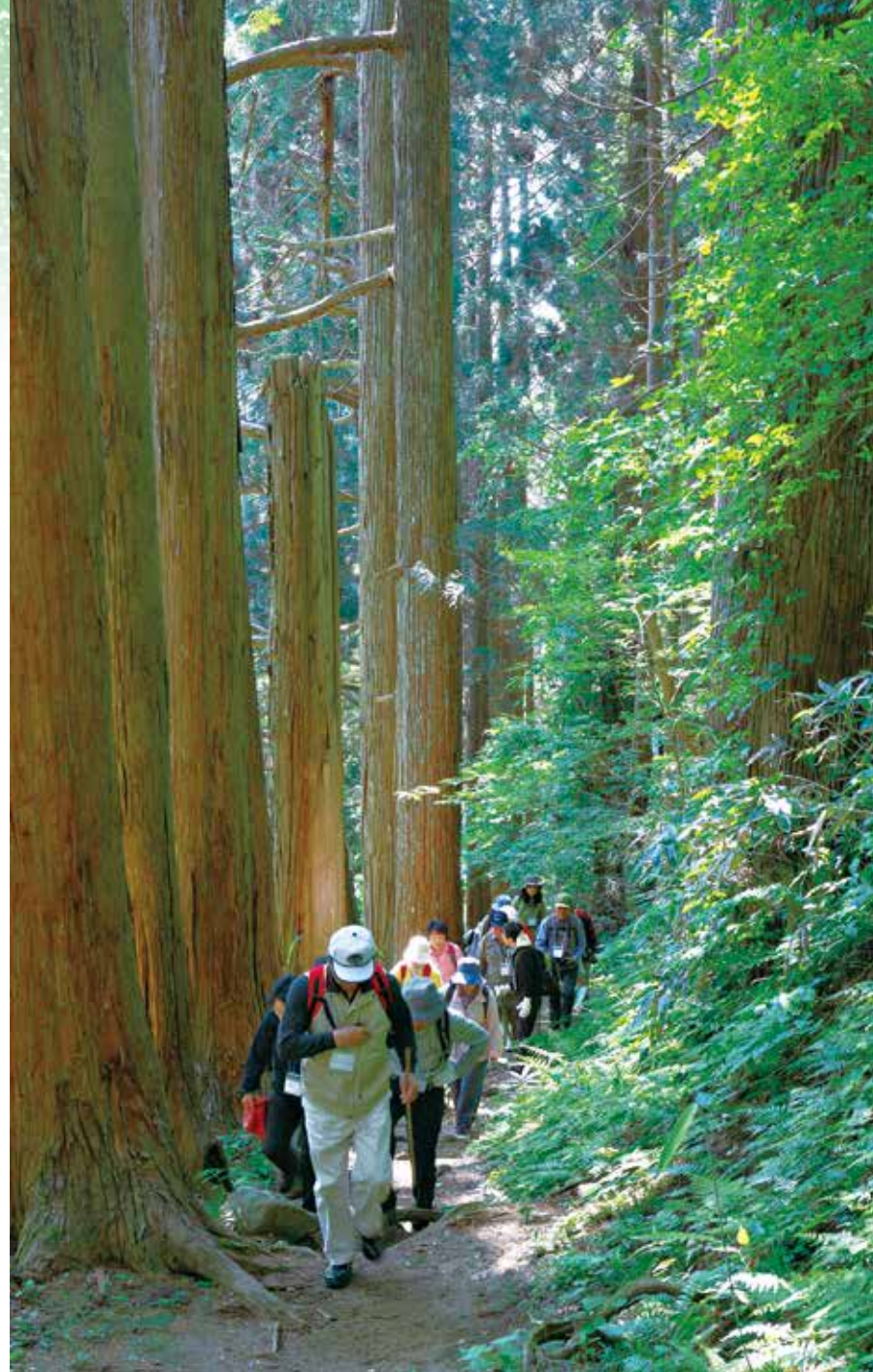
ひたすら杉木立を登り、五社殿(市指定文化財)へ。これより真山神社奥宮へ向う。



「ラクダ杉」と呼ばれるこの杉は、風雪の厳しさが作った奇形木。



本殿に参拝する参加者。



古道を偲ばせてくれる杉木立の続く真山大峰道。



オオサクラソウは本山を代表する花



「お山かけ」コース一帯は植生が豊か。山野草が登山者の目を楽しませてくれる。



古くからの信仰の山らしく石碑や石仏があちらこちらに残る。



本殿奥宮



真山山頂(567m)から寒風山を望む。



自衛隊レーダー基地を過ぎると、西海岸展望地に出る。眼下に西海岸や加茂漁港、温泉施設を望む。



このブナもまた日本海から吹き上げる潮風や冬の厳しい気候を乗り越えてきた形跡が、曲がりくねった大枝、樹皮のヒビ割れがそれを物語る。



ブナの緑のトンネルが続く本山大峰道。ブナの母樹と二次林が自然の奥深さを感じさせる。



DATA

- ◆登山適期/5月~10月。新緑の頃が特に見どころ。
- ◆交通/JR男鹿駅からバス・50分で真山神社へ。反対側の門前からはバス・35分で男鹿駅へ。自家用車の場合、門前と真山神社に車を1台ずつ配置するか、タクシーで登山口まで戻る。
- ◆参考コースタイム(お山開き行事)/真山神社社殿出発~門前五社堂(休憩1時間込み)まで7時間半の日程
- ◆「お山開き行事本殿登拝行事」の問合せ・申込み/真山神社 TEL0185-33-3033
- ◆その他の問合せ/男鹿市観光商工課 TEL0185-24-9141



卓越した技法と創造性の融合 木を生かし木に生かされる工芸家

由利本荘市石脇の小高い丘の住宅街の一角にさながら男の隠れ家といった風情の佇まい「工房 咲」があります。ここは、名人と誉高い木工芸作家、佐藤咲夫さんの工房で自宅の庭にひっそりと構えています。佐藤さんの木工芸品は、繊細

で美しい細工と豊かな想像力に富み、卓越した象嵌の技法と相まって見る人を釘付けにするほどの魅力に溢れています。労働大臣賞をはじめとした数々の受賞歴が作品の格調の高さを物語っています。

古里の山に祖母と遊んだ少年時代

矢島町に生まれ育った佐藤さん。少年時代は子ども同士で遊ぶより一人遊びが多かったそうです。コツコツと作業をしたり、祖母と一緒に山に入り、祖母が薪拾いや、山菜採りをする傍らで子供なりに森を楽しんでいたといいます。

今でも山は大好きで年中山に入り、山菜、キノコに関してはかなり博識です。「だから俺は貧乏暇なしなんだ」と屈託なく笑います。多感な少年期に山で草木に親しんだことで自然を慈しむ心や豊かな感性が培われ、独自の表現力、想像力が備わっていったのかもしれない。



左上からベルト、メガネケース、楊枝入れ。中央は名刺入れ、右は小箱。節穴から割れまですでに生かされている。日々の暮らしを心豊かにしてくれる小物たち。



「木」とじっくり対話をしてから創作を始める。

〈シリーズ〉 森の名手名人を訪ねる

揃います。道具は工作機械ではなく、カンナ、ノコギリ、手作りの小道具。材料に囲まれた手狭な環境でこだわりの作品づくりに「時々励む」といいます。素材の個性（木目の流れ、節、穴、色合い、ねじれ等）が一つとして同じものがない「木」との対話から作品づくりを構想する佐藤さんは、素材一つ一つ丁寧に向き合っています。始めて作品づくりができるそうです。「だから俺の場合時々励むという表現になるんだ」と笑います。

めに材料を選ぶのではなく、素材と対話しながら「何をやらせていただくか素材に何を立てるといったほうが正解かもしれない」と佐藤さんは領きます。木それぞれに持つ表情豊かな個性をいかに損なうことのないように作品に生かさせていただくか…素材に対してあくまでも謙虚です。佐藤さんは「木を生かす」のではなく「木に生かされている」といいます。作品に着色塗装しないのは木の温もりや肌触りが損なわれ、「木が息ができていないようでかわいそうだ…」とも。自然の贈り物である木への深く温かいまなざし。おだやかな語り口の中にも熱いものが感じられました。



天井から床まで所狭しと素材が埋め尽くす工房内。向かって右奥が作業台。

木工芸職人 佐藤 咲夫氏

木に生かされる

由利本荘市内の建具店に二十八年間職人として勤め、その後独立して「工房 咲」を始めたのは平成八年。

材料は豊富に備えており、工房周りに積んである黒っぽい木片は主にスギの「埋もれ木」です。埋もれ木は鳥海山の噴



木目を水流に見立て、飛び跳ねる魚を埋め込んだ象嵌の技法。繊細で美しい箱に森の命が宿るかのような創造性に富んだ作品。

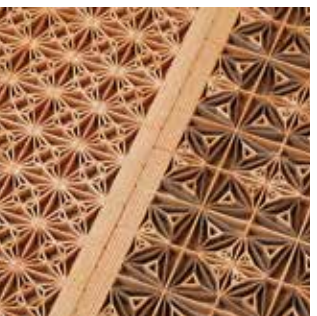
木の魅力を発信

佐藤さんには創作活動をしながらも次代へ木の持つ素晴らしい魅力を伝えていきたいという思いがあります。秋田県伝統工芸研究会の依頼により、秋田市の小学校の木工教室に講師として出向いたことがありますが、「画的に同じ『モノ』を作らせるのでは意味がない。創造性がない。」との思いがあり、一人一人の発想や個性を大切に、技術よりも木に親しみ、木工を楽しんでもらうことに主眼を置いて指導をしたそうです。個展やグループ展などの出品も「販売」目的だけではなく、若い世代への木の魅力発信というねらいもあります。

「木に生かされ、木を生かす」という佐藤さんはまさに「森の名手・名人」にふさわしい木工芸作家でありました。



角度によって立体感が出る模様の文庫の蓋。



様々な樹種で組んだ組子。パーツを正確に合わせていく緻密な作業。

佐藤 咲夫さん
昭和25年 由利本荘市(旧矢島町)生まれ。
《主な受賞歴・活動》
昭和61年全国一級技能士技能競技大会第1位、労働大臣賞受賞。
平成15年伝統工芸新作品展5回目の入賞、秋田県工芸家協会作品展工芸大賞5回受賞
平成22年度秋田県優良技能者表彰。
平成23年度秋田県芸術選奨受賞。
秋田県工芸展大賞、各種展示会にて県知事賞16回受賞。
全国有名百貨店で個展、グループ展150回以上開催



工房の前で埋もれ木を抱く佐藤さん

工房 咲
〒015-0011 由利本荘市石脇字下長老沼141-4
TEL・FAX 0184-23-1162

「森の名手・名人百人」の認定・顕彰について
公益社団法人国土緑化推進機構では、平成十四年度から、新たな国土緑化運動の一環として、森を守り、育て、その恵みを活かして持続的に循環していくことの重要性を社会に訴えるとともに、国民の森づくりへの参画を促す運動として「もりのくに・にっぽん」運動を展開しており、すぐれた技術を極め、他の技術・技能者等の模範となっている達人を、「森の名手・名人」として認定・顕彰してきました。

火によって地中に埋没した木が長い年月をかけて圧力を受けたために変化したもので、埋もれ木の独特の色合いは製材後、空気に触れて酸化したものです。内部の木目や色は製材して見るまでわかりませんが独特の風合いが作品に気品と趣をもたらします。そのほかに天然秋田杉やカキ、クルミなど様々な樹種が



鉛筆が置かれているようにみえる遊び心いっぱいの筆箱。6種類もの樹種で作られている。



大仙市立角間川小学校

美しい自然に恵まれた秋田県では、古くから学校林を中心とした森林環境教育が盛んです。緑にふれることによって、子どもたちの環境への理解を深めるとともに、豊かな人間性を育む……そんなすばらしい教育の伝統をもつ、多くの学校の中から、今回は大仙市立角間川小学校を紹介します。

大仙市立角間川小学校では、平成二十六年に緑の少年団が結成されました。その活動の一つに、獅子ヶ鼻湿原のフィールドワークがあります。鳥海山の豊かな自然の中で、子どもたちはどんなことを学んだのでしょうか。

緑の少年団を結成

角間川小学校は、大仙市大曲地区にある明治七年創立という歴史ある小学校です。大仙市は環境教育を積極的にすすめています。中でも角間川小など大曲南地区三校は、文部科学省(現在は大仙市の指定)の環境教育研究指定校に指定され、地域住民も含めた環境意識の高い地区として知られています。同小では、これまで角間川の環境調査、全校でのエコチャレンジ、清掃活動、獅子ヶ鼻湿原のフィールドワークなどに取り組んできました。



親水公園クリーンアップ

獅子ヶ鼻湿原のフィールドワークは、公益社団法人 秋田県緑化推進委員会の補助を受けて行いました。それがきっかけとなって平成二十六年八月二十五日に、全校生徒八十人が参加する緑の少年団が結成されました。



環境集会/集めた空き缶でタワー作り

豪雨の獅子ヶ鼻湿原

獅子ヶ鼻湿原は、鳥海山麓の中島台レクリエーションの森にあり、あがりこ大王(奇形ブナ)、出つば(湧水池)、鳥海マリモなどがあるコースタイム約四十分の環境教育のフィールドとして知られています。この湿原をフィールドとして知られていないのは、子どもたちに環境教育をするうえで、まず「本物の自然にふれて感動を覚えるところから出発しなければならぬ」と考えたからです。獅子ヶ鼻湿原のフィールドワークは平成二十五年から二年連続で、三年生から六年生までが参加して行いました。最初の年はあいにくの豪雨にあい、帰路ではもう少し遅ければ橋が渡れなかったという目に



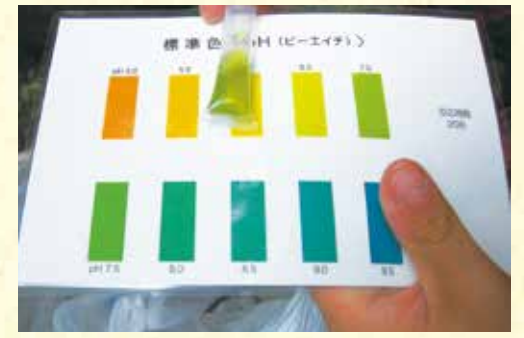
奇形ブナを観察



伏流水に触れる児童たち

かな水であることを学びます。奇形ブナの姿に驚いたあと、人間が炭焼きのため枝を切り落としたところから新たに芽が出てその姿になるということを聞き、自然のたくましさ、人と自然との共生について学びました。

検査キットを使って水質検査をすると、窒素が多く含まれていることに気づきます。落ち葉の養分が水に溶け込んでいることを知ると、きれいな水が同時に多くの植物を育む豊



検査キットで水質を調べる

環境意識が二つのステージに

校長先生をはじめ指導に当たっている先生方は、環境教育の継続性を重視しているそうです。エコ活動やフィールドワークを積み重ねることによって、子どもたちが氾濫する情報の中から、自分の視点で正しいものを見極められるようになることが期待されています。自然のままのように見える鳥海山も、ブナの伐採などと無縁ではなかったことを知り、問い合わせをしたり、本で調べたりして、独自に調査した子どもたちもいたそうです。アンケートを見ると、特に高学年の子どもたちの中に環境に対する危機意識や問題意識が芽生えていることがわかります。角間川小の環境教育は、着実な成果を残しているようでした。

気づきの芽生え 子どもたちにとって、獅子ヶ鼻湿原は驚きの連続でした。歩く足下がふわふわします。落ち葉が堆積した土壌で、ふんだんに水分を含んでいることを感じます。ブナの幹をつたって流れる水(樹幹流)に触れ、意外に暖かいことに驚き、そこに生命の息吹を感じます。



「森の案内人」の方の解説で様々な森の知識を学ぶ

SERIES

市町村の 緑化推進委員会 を訪ねて

第1回 横手市緑化推進委員会

県内各市町村の緑化推進委員会は、(公社)秋田県緑化推進委員会の正会員として、ともに協力して地域の皆さんに緑の募金をお願いし、それをもとに生活環境の緑化、森林ボランティア及び緑の少年団等の育成等に取り組んでいます。シリーズでその活動をご紹介します。

際だつ家庭募金普及率

横手市は平成十七年に八市町村が合併し、担当地域が一気に拡大しました。横手市緑化推進委員会がその際まず取り組んだのが、家庭募金の普及でした。合併当時は二市町でしか実施されていなかったものを、八年がかりで八市町村全域での家庭募金を実現させたのです。それは緑の羽募金の意義、地球環境問題や緑化運動に対する理解や意識を高めるため、横手市緑化委員会が各町内会に対して地道に啓発活動を継続してきた成果であり、同委員会の際だった特徴となっています。その取組は、例えば募金を呼びかけるチラシを例に挙げても明らかです。県緑化推進委員会が印刷したチラシの配分は四万枚と、県内でも群を抜いて多い上、独自に四万枚のチラシも別に作成して全戸に配布しています。各町内会の総会は、啓発活動には

最適な機会なので、要望があれば地域局の担当職員が向いて住民に説明し、協力を要請しています。

町内会では戸別に募金をお願いするのではなく、町内会で一括して募金をするスタイルが半分近くで、年々増加しています。また、各地のお祭りや朝市、産業祭といったイベントがあれば、地域局の担当が向いて積極的に募金活動をしています。そ



「朝市」で募金活動

の際、平鹿りんご味覚まつりのように苗木のプレゼントを実施することもあり、市民の人気を集めています。

地域おこしに協力する還付金事業

緑の募金で集まったお金は還付金事業で六十%以内で還付されます。昨年度も横手市立栄小学校や増田町婦人会などの環境整備活動を支援しました。

栄小学校は笑顔満開の学校をめざし、花や農作物を育てることをとおして「命」の大切さを学んでいます。平成二十六年度は横手市緑化推進委員会の助成も得て学校創立百四十周年記念として正面玄関に記念花壇を造園しました。



「産業祭」での苗木プレゼント



みんなで記念撮影



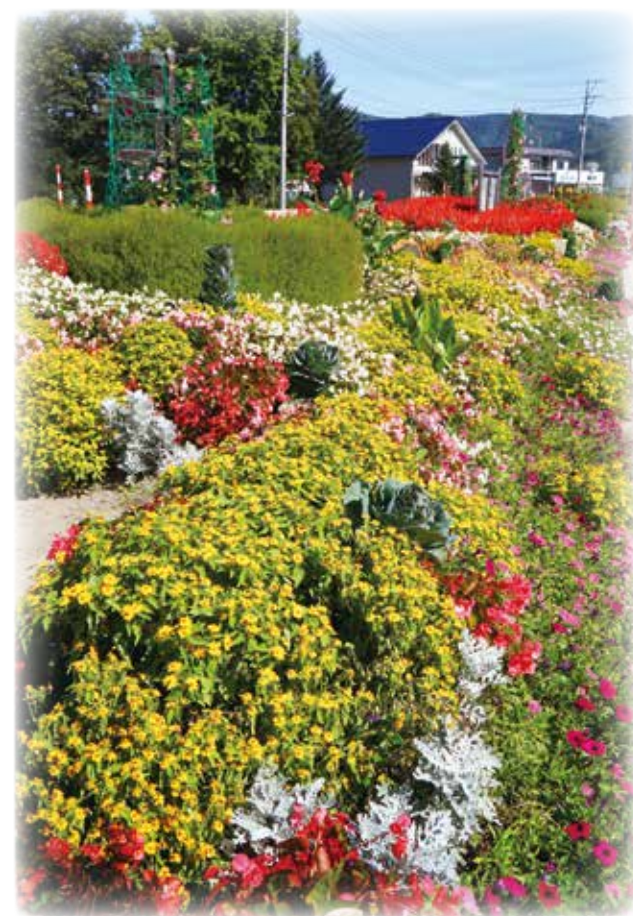
栄小学校児童による栄っ子ガーデンの整備活動

また、増田町婦人会(会員数166名)の花壇づくりは、平成十九年度秋田県団体のウエルカム花壇の除草や管理を市から委託されたことが契機となって始まりました。旧道の瓦礫や砂利混じりの土壌は関係機関等のご協力をいただきながら、EMぼかしや有機肥料をたっぷり与え土壌改良をするなど、本格的に土づくりから花壇づくりを行っています。平成二十年には早くも秋田県教育長賞を受賞するなどその受賞歴は輝かしいものです。



受賞歴

- 平成20年 県教育長賞 受賞
- 平成21年 県花壇コンクール 県知事賞受賞
- 平成22年 全国花のまちづくりコンクール 入選
- 平成24年 県の花壇コンクール 知事賞
- 平成25年 県花壇コンクール 農林中央金庫秋田支店長賞
- 平成25年 全国花のまちづくりコンクール 入選
- 平成26年 全国花のまちづくりコンクール 優秀賞受賞



平成27年のテーマは「通リゃんせ 花の森」

「横手川千本桜」がもたらしたもの

横手市緑化推進委員会がこれまで行ってきた還付金事業で、大きな成果を挙げた一例が、「横手川千本桜の実現」でした。横手川は、横手市街を東西に分断するように流れていますが、市内でS字状に屈折して流れるため、たびたび洪水被害に見舞われていました。これを防ぐため河川改修事業が行われていますが(昭和五十一年着工)、多自然型川づくり、ふるさとの川整備事業などによって親水空間や水辺環境整備が進められて景観が一新されました。

この横手川の景観をさらに素晴らしいものにしようと、平成十四年、地域住民が中心となって結成されたのがNPO「横手川千本桜をすすめる会」でした。横手川に桜を植樹する同会の活動に横手市緑化推進委員会は全面的に協力しました。十年あまりの歳月をかけ、市内中心部を流れる横手川の両岸には見事な桜並木が誕生し、横手城のある横手公園に並ぶ桜の名所となっています。

役割を果たした「横手川千本桜をすすめる会」は、NPOから任意団体となりましたが、現在でも桜並木や景観の維持のため地道な活動を続けています。緑化推進委員会でも、引き続き桜の整備に協力しているほか、毎年六月の環境月間の第一日曜日には横手川クリーンナップ作戦を共催して景観の維持に努めています。このク

リーンナップ作戦には、地域住民を中心に六千人ほどの人々が集まります。桜の植樹に始まった活動が、桜並木の誕生だけでなく、人びとの環境意識の高まりや、地域コミュニティの再生といった目に見える成果をもたらししているのは、本当に驚きです。

横手川の堤を見事に彩る桜並木



男鹿半島・大瀧ジオパーク 大地の歴史博物館[男鹿] 太古の鼓動を感じるジオパーク

日本は大陸の一部だったのが7千万年の時をかけて分かれ現在の形になったという。火山活動など大地の変化の痕跡を目の当たりにできる「ジオパーク」としての男鹿が話題を呼んでいます。「日本の奇岩百景」に男鹿市は17件登録され、これは市町村別で全国最多です。今回は男鹿の奇岩の中から一部を紹介します。

※ジオサイトとは、ジオパークの中にある地形や地層などを観察するのに適した場所をいいます。ジオパークとは、地球を楽しく学ぶ大地の公園をいい、地形、地層のほかに自然、動植物、大地の恵みによる暮らし、文化も含まれます。

写真提供：男鹿半島・大瀧ジオパーク推進協議会



西海岸



「大棧橋」「舞台島」「桜島」が登録された西海岸。激しい地殻変動による断崖の絶景が続く。遊覧船での島巡りがおすすめです。「大棧橋」は波の浸食によって巨岩がアーチ状にくり抜かれ、豪快な景観です。

潮瀬崎



磯の至る所に屹立する大岩は火山礫凝灰岩と呼ばれる約3千万年前の火山の噴出物。「ゴジラ岩」「ゴジラのしっぽ岩」「ガメラ岩」などの奇岩が集中しています。「双子岩」はよく似た形の岩が並ぶことがその名の由来。マグマの通り道・岩脈と岩床(噴出時代は2千万年前)の両方が観察できる学術的にも価値のある奇岩です。

入道崎



その昔田畑を荒らす鹿を村人が断崖に追いやったことに由来する「鹿落し」。溶結凝灰岩の一種で、この岩石は郷土料理「石焼」に使われます。「鬼の俵ころがし」は花崗岩の地表を貫く玄武岩の岩脈が俵をころがした跡のように見えることに由来。入道崎南の崖下にあり、この花崗岩は男鹿半島で最も古い岩石で、土台となる基盤岩です。

「鬼の隠れ里」は唯一、内陸部での登録。山頂付近にあり、粘性の高い溶岩が地上に押し上げられてきた「火山岩尖」。ドーム状を形成した後、重力に耐えられず崩落したものです。

寒風山



「真山の万体仏」県指定文化財。5.5m四方の堂舎内の壁に約1万2千体の杉の木彫りの地藏菩薩がびっしりと並び、

「真山神社」千数百年前の創建と伝えられ、毎年2月には境内で「なまはげ祭り」が行われます。お山かけコースは神社拝殿脇からはじまります。

館山崎



「椿の白岩」に代表される白っぽい色の岩がある館山崎。その中に緑っぽい岩肌の凝灰岩の大岩があり「グリーンタフ」と呼ばれています。付近には「ろうそく岩」と呼ばれる細長い岩が立っています。

鶴ノ崎海岸



日本の渚百選として知られる鶴ノ崎海岸。海面からぼっこり丸い顔を見せるのは「小豆岩」。また、地層の硬さの違いから段々の地形になった「鬼の洗濯板」があり、冬から春先の干潮時に巨大なしま模様を見せます。

COLUMN

里人に守られてきた自然「ツバキ原生北限地帯」 椿漁港近くの能登山周辺一帯は、椿の国内・原生北限地帯とされ、国の天然記念物の指定を受けています。椿を「市の花」に定めている男鹿市は「第25回全国椿サミット」を誘致。県立大蒔田教授は基調講演の中で「自生地は椿が生きていけるよう地域の人が少し手助けすることで育まれてきた」と述べ、参加者は自生北限の意義を学びました。

食



温泉

日本海を眺めて温泉入浴 大正時代より庶民に親しまれてきた男鹿温泉郷にはホテル、旅館、国民宿舎、飲食店が立ち並びます。●西海岸には金ヶ崎温泉があり宿では絶景の海岸美を楽しめます。※施設によって日帰り温泉入浴も可能。(要確認)

体験



男鹿の「海・山・食・文化・暮らし」を楽しんでいる人々が集い、地域おこしに取り組んでいるネットワーク組織です。メイン活動は「まるごとOGAあそび！サマーキャンプ」。秋田中央地区の小学1年～6年生を対象に、7～8月に実施されます。海あそび、里山あそび、ウッドジョブ、工作やクッキングなどを通して、子どもたちが楽しく自然への理解を深めるよう企画されています。昨年の参加者は約230名。事務局長でネイチャーラフ作家のすみよしよしえさんは、「子どもたちに自然のよさを知ってもらおうきっかけづくりとなるよう『わくわく』を仕掛けています」と話されていました。※キャンプ参加は有料です。

東北自然歩道「新・奥の細道」を歩こう

- A 寒風山へ登るみち
登山口バス停 -15分- 八英の梅 -25分- 寒風山下 -15分- 寒風山頂上展望台 -10分- 県道 -15分- 鬼の隠れ里 -15分- 玉の池 -45分- 比詰バス停 *2時間20分
B なまはげの里をたどるみち
長楽寺前バス停 -20分- 五社堂 -80分- 毛無山 -30分- 本山 -25分- 真山 -25分- 真山神社 -40分- 万休山 -50分- 県道 -20分- 北浦バス停 *4時間50分
D 地層と地引網を体験するみち
浜間口中丁バス停 -30分- 峠 -10分- 国道101号 -25分- 安田層 -30分- 五里合海水浴場 -10分- 五里合園地休憩所・駐車場 -15分- 橋本バス停 *2時間30分

《なまはげの里をたどるみち》お山かけコース・周辺観光スポット



秋田県公式Webサイト「美の国あきたネット」に東北自然歩道についてのページが掲載されています。美の国あきたネット 東北自然歩道とは 検索

感謝の心、大切に。
お客様とのお取引が秋田銀行の財産。
感謝の心を大切に、よりよいサービスを提供してまいります。
http://www.akita-bank.co.jp/ 秋田銀行

各地区の緑化推進団体等ご紹介《連絡先》
●鹿角市緑化推進委員会 TEL 0186-30-0203
●小坂町 TEL 0186-29-3912
●大館市国土緑化推進委員会 TEL 0186-43-7076
●北秋田市緑化推進委員会 TEL 0186-72-5241
●上小阿仁村緑化推進委員会 TEL 0186-77-2221
●能代市国土緑化推進委員会 TEL 0185-89-2250
●三種町緑化推進委員会 TEL 0185-85-2111
●八峰町緑化推進委員会 TEL 0185-76-2111
●藤里町緑化推進委員会 TEL 0185-79-2111
●秋田市緑化推進委員会 TEL 018-829-0221
●男鹿市緑化推進委員会 TEL 0185-23-2111
●潟上市 TEL 018-855-5110

あきた
緑化の足跡



公園内にある秋田県緑化推進委員会による地域づくり補助事業(桜・植樹)の標柱。

昭和49年4月25日

第25回秋田県植樹祭開催地——姫神公園《大仙市》

旧大曲市制施行20周年記念植樹と県民有林造林5万ヘクタール達成記念植樹を兼ねて、昭和49年、姫神公園を第一会場に秋田県植樹祭が開催されました。



植樹祭記念の石碑

参加者は小畑勇二郎知事、根本衆議院議員他、759名。植樹した本数も759本。サクラ80本、ツツジ類456本、アズキ223本です。一般市民もサクラ、ツツジ、アズキなど300本をそれぞれの自宅に植えました。植樹祭のメインテーマは「くら

しに夢を呼ぶ緑、きれいな郷土を子供らに」。キジ10羽が大空に記念放鳥され、記念の石碑も建立されました。姫神公園の主会場は「姫神いこいの広場」として管理されており、植栽木は良好に生育しています。

姫神公園は大曲駅から車で10分程の場所にあり、雄物川のほとり、伊豆山の麓の高所に位置します。公園からの眺望は仙北平野、雄大に流れる雄物川、奥羽山脈が一望できるロケーションです。夕景、夜景も素晴らしく、写真愛好家もよく訪れます。大仙市の名物「大曲の花火」を眺めることができる人気スポットでもあります。

公園内には、ジャンボすべり台やトリム広場、テニスコート、姫神ハイツ(レストハウス)などが整備さ

れ、バーベキューを楽しむこともできます。また、園内には大曲捷水路竣工20周年を記念して建てられた記念館があり、付属するカリヨン(鐘)の塔からは8時~18時の毎正時、美しい鐘の音が街に響き渡ります。春には公園内の桜が満開となり、花見客で賑わいます。また、大平山(姫神山/標高387.6m)の登山道登り口があり、春から秋にかけてはハイキング客が多く訪れます。

姫神公園付近の伊豆山は、伊豆山神社本殿があり、「川を渡る梵天」の梵天奉納の神社であり、勇壮な奉納場面が見どころとなっています。神社参道の「ねじれ杉」は、根元から頂までがねじれている非常に珍しい杉の木です。風光明媚な姫神公園一帯で憩いのひとときをすごされてはいかがでしょうか。



右側奥は姫神ハイツとカリヨンの塔



伊豆山神社に向かう途中の清水



伊豆山神社の「ねじれ杉」

Photograph
この一枚

おしら様の
枝垂れ桜
【湯沢市】

湯沢市指定天然記念物の、「この一本桜」は国道十三号と国道一〇八号の交差点付近のあぜ道沿いに立っています。地元で「おしら様」と呼ばれる白山神社のすぐそばにあることから、「おしら様の枝垂れ桜」の愛称で親しまれています。

推定樹齢約二百年、樹高約十m、目通幹周り約三、七m、枝張り約十九mと県下有数の大木。高樹齢でありながらゆったり垂れた枝に豊かに花をつける姿は、美しく風格があります。里山の春紅葉、新緑とのコントラストとあいまって優美な景観を作り出しています。

祈願すると縁結び、子宝、安産、病氣治癒など不思議な力を与えるといわれパワースポットにもなっています。

平成二十三年には東北・夢の桜街道八十八カ所に選定され六十六番札所として登録されました。また、テレビ局や全国誌等にも紹介され、年々花見に訪れる人々が増え、開花期間はライトアップされます。

◆主に掲載されたもの

- ・平成二十一年/日本カメラ「全国名桜十本」
- ・平成二十四年/大人の桜旅「名桜&一本桜全国二三選」
- ・平成二十五年/日本さくらの会機関誌「さくら」全国名桜名所八ヶ所等



樹木たちの声に
耳をかたむけてみませんか。

公益社団法人秋田県緑化推進委員会が実施した調査をもとに、秋田県内の誰でも観察できる巨樹・古木277件を厳選しました。樹木の写真・データ・地図に、由来などを紹介するやさしい解説を添えたガイドブックです。

秋田の巨樹・古木

編集発行 公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

定価 1,543円(税込) おもとは最寄りの書店、または秋田文化出版(TEL.018-864-3322)

巨樹・古木
277本
掲載!!

数百年の歳月を越えて



もりのかぜ・ねっと

INFORMATION



緑の募金大使「森っち」



緑化推進委員会の主要事業

「緑の募金」運動の推進

- **地域緑化活動支援**
市町村等が行う緑化イベントへの支援
- **緑化思想の啓発**
チラシ、看板、キャンペーン、機関誌発行、緑化関係表彰
- **県民参加の森づくり推進**
森林祭等開催、市民グループ森林づくり活動支援

※秋田県緑化推進委員会は、国土緑化推進機構・各都道府県緑化推進委員会と連携し、緑の募金による東日本大震災被災地のみどりの再生支援を行っています。

～緑の募金運動を広く展開し、それを主な原資として次のような事業を推進しています。～

- **森林ボランティア育成**
スタンプラリー、活動支援、リーダー養成
- **名木・古木等の保護**
診断、調査の支援
- **国土緑化運動**
国土緑化推進機構連携事業、東日本大震災被災地支援、公募事業
- **緑の少年団等育成**
交流集会、学校緑化コンクール、活動支援、学校緑化、子供木づかい体験(つみ木のプレゼント)
- **緑化表彰**
各種緑化功労者、学校緑化コンクール等の表彰
- **公募による緑化活動の支援**
国土緑化推進機構及び県緑推の公募による緑化活動の推進

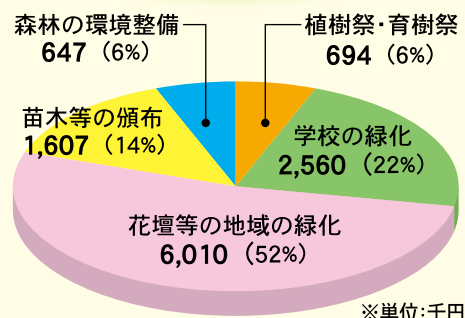
ダイドードリンコ(株)では、
環境貢献として飲料自動販売機による「緑の募金」活動に協力しております。

「緑の募金自販機設置」のお願い
新規設置の自動販売機が対象です。設置、ご紹介の協力をお願いします。

目印はこのパネル!!
この自動販売機の収益金の一部は、「緑の募金」に寄付されます。



市町村では、「緑の募金」をこんなことに役立てています。
平成26年度



※計11,518千円

※地域緑化推進事業のうち、活動推進費、資材購入費、推進事務費を除いた緑化活動費の内訳です。

募金実績

平成26年度	※単位:千円
家庭募金	13,061
学校募金	5,906
職場募金	3,834
街頭募金	434
企業募金	3,383
その他の募金	3,744

総額 30,362千円

TOPICS

「森の教室」IN 秋田

つなぐ・広がる 緑のリレー・プロジェクト『森の教室』どんぐりくんと森の仲間たちのキャラバン隊が、昨年に引き続き秋田県を訪れ、保育園児と一緒に森について考え、どんぐりを播いて身近な森づくりの活動を行いました。これまでに、希望が寄せられた男鹿市、北秋田市、秋田市の19保育園で600名ほどの園児が参加しました。「森の教室」は、4つのプログラムで構成され、1時間半ほどのイベントで、子供たちは最後まで目を輝かせて参加してくれました。

Part1 森の楽しさを伝え、学ぶ「森づくりキャラクターショー」

森づくり名人「どんぐりくん」や宇宙からきた「エコロン」が、身近な題材の大きな絵本を使って、森の楽しさや不思議を伝えました。また、ご当地キャラのスギッチや大森山動物園ではオモリンも飛び入り参加してくれ子供たちを大いに喜ばせてくれました。



緑化推進委員会理事長の話に嬉々とする園児たち

笑顔満開・4つのプログラム

Part3 キャラバン隊と一緒に「どんぐり播き」

園児が、キャラバン隊が持参したポットにどんぐりを播き2年間大切に育てますと誓いました。



「身近な森づくり」を楽しんだ園児たち

Part2 オリジナル「森の体操」

「森のお姉さん」やキャラクターと園児が、体を大きく動かし、大きな声を出して楽しく踊りました。

Part4 「君たちに伝えておきたい日本の原風景1枚の手紙」の朗読

公募したお爺ちゃん、お婆ちゃん、お父さん、お母さんが伝えておきたかったことをまとめた「1枚の手紙」を子供たちに読み聞かせました。

募集中!!

当委員会では、これからも継続していくために、次のプロジェクト目標に賛同して森づくりに参加していただける幼稚園・保育園と園児を募集しています。

- 1 子供たちに「いのち」の大切さを教えるとともに、大人までの幅広い年代が参画する地域ぐるみの運動を目指す。
- 2 森づくりを通じて、未来につなげるべき、我々の環境への意識づくりを子供→家族、地域→社会へと広げる。
- 3 緑豊かな環境を次世代に引き継ぐために、途絶えることのない緑化運動を目指す。

MEMO

- 1月31日(土)～2月1日(日) ●秋田市で「森と木のフォーラム」及び「木育キャラバンin秋田」に共催
- 3月23日(月) ●秋田市で「(公社)秋田県緑化推進委員会 第44回通常総会」開催
- 4月 9日(木) ●農林中央金庫秋田支店が、募金や緑化活動の支援グッズとして「花の種」寄贈
- 4月25日(土) ●秋田駅前「緑の募金街頭キャンペーン」を開催
- 5月17日(日) ●石川県小松市で第66回全国植樹祭
- 7月12日(日) ●北秋田市北欧の杜公園で、「2015あきた水と緑の森林祭」を開催
- 8月 4日(火)～5日(水) ●由利本荘市の岩城少年自然の家で、「秋田県緑の交流集会」を開催

- 8月20日(木) ●森の名手・名人に2人の方を推薦し、選定された潟上市 丸野内 慎一(木工芸) 能代市 武田 久雄(組子細工)
- 8月31日(月) ●全国学校緑化コンクールに推薦 学校林活動の部:北秋田市立鷹巣南小学校 学校環境緑化の部:三種町立浜口小学校
- 9月24日(木) ●大仙市協和船岡及び秋田市河辺若見で「中通小学校林業体験学習」を開催
- 9月29日(火)～10月2日(金) ●秋田市で「森の教室」を開催
- 10月11日(日) ●岐阜県揖斐郡で第39回全国育樹祭

もりのかぜ

Vol.7

編集・発行
平成27年10月1日(木)発行

公益社団法人 秋田県緑化推進委員会
〒010-0941
秋田市川尻町字大川尻170-169 森林環境会館内
TEL018-883-0815 FAX018-883-0816
[Eメール] akiryoku@estate.ocn.ne.jp
URL http://akiryoku.ec-net.jp/

制作
有限会社 バレア
〒010-0951 秋田市山王7丁目5-10
TEL018-896-7225 FAX018-883-0004

編集後記

県内各地で、「森のつみ木広場」ワークショップを開催しています。このワークショップでは、秋田スギを正方形、長方形、台形の立方体にカットした、軽くて木の香に包まれたつみ木を使って、よちよち歩きの子供から中学生まで年代に合わせて色々な遊びが出来ます。小さい子は、つみ木のシャワーや床一面に動物などいろいろな形を作ったりします。大きい子供たちは、自分たちの背より高い塔を組み上げたり、みんなで協力して人が中に入れる巨大な塔を作るなど遊び方は千差万別です。最後は、作り上げた達成感を味わい、壊す段になるとためらいながらも、やがて大きな音を立てて一瞬のうちに崩れ去る様に歓声を上げたり泣き出したりと感情表現も様々。子ども同士が楽しさ、喜び、驚きを共感し分かち合い、「協調性」や「創造力」が育まれるつみ木遊び、シンプルでありながら子どもたちの豊かな感性が磨かれます。情報や物が氾濫している時代にあって、つみ木のワークショップではいつもSimple Is Bestを実感しています。

みんなが森林の応援団!! 緑の募金

への協力と森林づくりへの参加をおねがいします。
■緑の募金は、地域の環境緑化活動や森づくり活動への支援に使われます。



実施主体 / (公社) 秋田県緑化推進委員会
市町村・市町村緑化推進委員会
緑の募金でふせごう地球温暖化

ウッドファーストあきた 木材利用ポイント事業 実施中!!

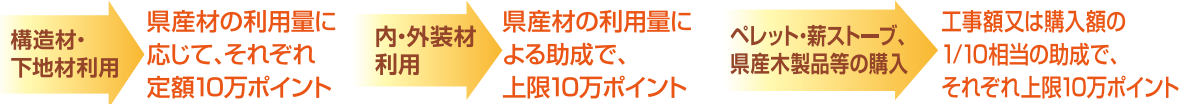
県産材を使って家を建てたり、リフォームしたり、県産木製品等を購入したりすると、ポイントをもらえて、県産品と交換できる事業です。

事業概要

県民を挙げて、地域の木材を優先的に活用する「ウッドファースト」な秋田の暮らしを展開する中で、県産材等の利用に対して助成するものです。

助成対象

県産材(構造材、下地材、内・外装材)を使って住宅を建設し、又はリフォームをした方や、ペレット及び薪ストーブ、県産木製品等を購入した方に、県産品等と交換できるポイント(1ポイント1円相当で、最大20万ポイント)が発行されます。



交付要件

助成を受けるには、次の要件を全て満たすことが必要です。

- 所定量の構造材・下地材を使用すること。
 - 県内工務店が施工した住宅、県内販売店が扱うストーブ、木製品であること。
 - 県内の製材所等が生産した県産材であること。
 - 平成27年4月1日から12月31日までに完成し、又は購入したものであること。
- ※満たすべき要件の詳細については、「ウッドファーストあきた木材利用ポイント事業募集要領」を御覧ください。

ポイントの発行対象

平成27年4月1日から12月31日までの期間に、県内で県産材を利用した住宅の新築やリフォームの実施またはストーブ(まき・ペレット)や県産木製品等の購入をした場合で、所定の要件を満たしたときに、ポイント発行の対象となります。

ポイント付与対象期間

- ポイント申請期間:平成27年7月1日(水)～平成28年1月29日(金)
- ポイント交換期間:平成27年8月3日(月)～平成28年2月29日(月)

※ただし、発行可能なポイント数の上限に達した時点で、ポイント発行申請の受け付けを終了しますので、早めに申請をお願いします。

書類の提出先

申請の受け付け窓口(県内12カ所)や商品交換対応団体(県内1カ所)については、県のホームページに全て掲載しておりますので、ご覧ください。

秋田県公式Webサイト 美の国あきたネット <http://www.pref.akita.lg.jp/>

ウッドファーストあきた

検索

問合せ先

秋田県木材産業協同組合連合会
秋田県林業木材産業課(木材利用推進班)

TEL:018-837-8091
TEL:018-860-1915